

国立台湾大学哲学系佐藤将之教授特別講演

国際化の方法としての中国思想

『論語』など特定の古典への人気を除けば、もはや人文領域の「斜陽産業」と化した感のある日本の中国思想研究であるが、世界的に見れば「国学熱」に沸く中国はしばらく措くとしても、アメリカなどでも中国思想の研究は、むしろ発展傾向にあると言って良い。

本講演ではそうした中国思想研究をめぐる世界の動向を紹介しつつ、「礼」をキーワードに、中国思想の理解は、21世紀の日本においても新たな国際交流のツールになるのではないかという展望を示してみたい。

日時：2017年5月17日（水）

16:20～17:50

場所：文学研究科B153講義室

（どなたでも聴講できます）



National Taiwan University Masayuki Sato

【佐藤将之教授プロフィール】 1965年神奈川県川崎市生まれ。青山学院大学卒（国際政治）、台湾大学、ソウル大学修士（ともに政治学）、オランダ・ライデン大学博士（中国哲学）。ライデン大学講師等を経て、現在、国立台湾大学哲学系教授ならびに国際日本文化研究センター訪問研究員（2017年4月より9月まで）。主な研究テーマは中国古代思想、特に荀子。著書は、*The Confucian Quest for Order: The Origin and Formation of the Political Thought of Xun Zi* (Leiden: Brill Academic Publishers, 2003)、『中國古代的「忠」論研究』（臺北：國立臺灣大學出版中心、2010）、『荀子禮治思想的源淵與戰國諸子之研究』（同、2013）、『荀學與荀子思想研究：評析・前景・構想』（臺北：萬卷樓圖書公司、2015）など。

太田淳先生（2016年3月まで本研究科准教授）がライデン留学時代に最も影響を受けた日本人の一人です。人文学を学ぶ者がグローバルに活躍する上で何をすべきかについてもお話ししてくださるとのことです。中国学専攻以外の学生の聴講も歓迎いたします。

問い合わせ先：文学研究科中国思想文化学研究室 末永高康（moyong@hiroshima-u.ac.jp）